

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 133 〔麒麟過隙〕 きき かげき

< 意味 > 時の過ぎ去ることのきわめて速やかなことの形容。また、きわめてわずかな時間。ほんの一瞬の出来事のとえ。もと人の命のはかなさをいう語。

< 出典 > 「そうじ 荘子」 < とうせき 盜跖 >

語 釈 : 「麒麟」は一日に千里を走る駿馬。しゅんめ 「過隙」は戸の隙間をさっと駆け抜ける意。  
「き きげき す 麒麟隙を過ぐ」と訓読する。

用 法 : 年老いた今思うと、人の一生など麒麟隙を過ぎるような一瞬の出来事だ。

一 言 : 今年も間もなく過ぎていきます。今年は何と言っても年号が平成から令和に変わった年として人々に記憶されることでしょう。私としてはその他に、ワールドカップ・ラグビーで日本中が盛り上がったこと、9月の台風で我が家が被害に遭ったことも覚えていることと思います。

参考文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」